

「よどんだ心はきよまるのか」

ローマ人への手紙5章12節—21節

12 このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。13 というのは、律法以前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪として認められないのである。14 しかし、アダムからモーセまでの間においても、アダムの違反と同じような罪を犯さなかった者も、死の支配を免れなかった。このアダムは、きたるべき者の型である。15 しかし、恵みの賜物は罪過の場合とは異なっている。すなわち、もしひとりの罪過のために多くの人が死んだとすれば、まして、神の恵みと、ひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、さらに豊かに多くの人々に満ちあふれたはずではないか。16 かつ、この賜物は、ひとりの犯した罪の結果とは異なっている。なぜなら、さばきの場合、ひとりの罪過から、罪に定めることになったが、恵みの場合には、多くの人の罪過から、義とする結果になるからである。17 もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあって、さらに力強く支配するはずではないか。18 このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。19 すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。20 律法がはいり込んできたのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。21 それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである。

ご存知のように聖書の一番最初に書かれている書は創世記でありまして、ここには世界の始まり、人間の始まり、悲しみと苦しみの始まり、夫婦の始まり、家族の始まりというようなものが書かれています。ある人はこの創世記を古代の文書と呼びます。しかし、この創世記ほど今日の私達の生活に指針を与える書はありません。

今日、開かれているローマ書5章12節にはこんな言葉があります「このようなわけで一人の人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいつてきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類に入り込んだのである」。このところに「一人の人」という言葉が書かれていまして、そして、この後をすぐ読んでいきますならば、それが創世記に記されていますように神によって一番最初に創造されたアダムのことであることが分かります。すなわち、このアダムから罪がこの世界にはいり、死が全人類に入り込んだというのです。

余談になりますが、聖書によると私達、人間の一番はじめの人はアダムであり、そして、その妻としてエバがいます。ということは、私達全ての人はこのアダムとエバの末裔ということになります。ですから、私達の祖先というものをさかのぼって行きますと、全ての人はこのカップルに行き着くわけでして、アメリカ人とか日本人とか、パスポートとかビザとか色々言っていますが、まさしく私たちは皆、遠い親戚なのであります。「人類、皆兄弟」という言葉がありますが、これはあながち間違っていないのです。

話を戻しましょう。「このようなわけで一人の人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいつてきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類に入り込んだのである」すなわち、罪が「はじめの人、アダム」から、この世界に入ってきたと聖書は言っています。この「入り込んだ」という言葉は、「返ってきた、戻ってきたという意味ではなく、本来、私達のものではなかったものが、入り込んできて、私達を捕らえ、支配するようになった」という意味があります。

ゆえにアダム以後の人間は私達が抱える罪という問題に捕えられながら、支配されながら生きてきているのです。そして、17節や21節を見ますと、この罪によって、死が私達を支配するようになったというのです。

どういふことなのか。創世記からポイントを幾つかお話したいと思います。神がエデンの園にいた最初の人アダムに対して「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」（創世記2章16節ー17節）と言われました。けれども、まず最初にアダムの妻イブが蛇によって「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを神は知っておられるのです」（創世記3章4節）というような誘惑に惹

かれて彼らは神の言葉に反し、そう言われていたように、彼らは死において自分の生涯を結論づけなければならないようになってしまいました。

創世記3章以下、アダムから生まれてくる全人類は、全部そういうパターンをとっているのだというのがこの教えであります。そして、このアダムの末裔である私達の世界に見る現実の中もこの罪と死によって支配されているのです。

以前、私がまだ小学生の頃、私は近くを流れる川でよく泳いだり、魚をとって遊びました。40年以上も前のことなので、川もある程度は澄んでいました。ある日のこと、いつものようにその川に遊びに行くと、いつもは澄んでいる水が茶色に濁っているのです。何かかと思いきや、それはその川の上流で工事がなされており、大量の赤土が川に流れ込んだためであるということを知りました。その日は川で遊ぶことなく家に帰ったことを覚えています。そして、あちこちに土砂により水の中の酸素がなくなってしまったのでしょうか、魚達が水面にパクパクとその口を広げていました。中には白い腹を見せて水面に浮かんでいるものもいました。

その光景はアダムを源流とする今日の私達の世界のようにも思えます。日々の生活を生きるのがシンドイ、靈的な精神的な呼吸困難に陥ってしまう。そして、聖書が書いているように、そんな私達の終局は死なのです。

この罪の流れはとても強いものです。そして、その本流はいくつもの支流を作り出し、私達の生活のいたる所にまで流れ込んできます。この流れは電話の受話器を通り抜けます。インターネット・ケーブルを通り抜けます。この流れは国会議事堂にも流れていますし、病院にも、学校にも、私達のオフィスにも、そして家庭にも流れ込んでいます。

そんな流れの中で、私達はどうすればいいのか。使い捨ての靈的酸素ボンベを買うことが解決でしょうか。分厚い神聖なウエットスーツが必要なのでしょうか。それとも私達はこの状況に甘んじて生きていくのでしょうか。その罪の汚染の中でジッと耐え忍んで生きていくのでしょうか。あるいは開き直ってその中で虚楽に甘んじていくのでしょうか

いいや、そうではないとパウロはここで言っているのです。すなわち、このところでパウロが何度もその罪の源流となったアダムを指して「ひとりの人」と言っているように、パウロはこのアダムの他にまた「もうひとり

の人」について挙げており、そのもうひとりの人こそ「イエス・キリスト」なのだと言っているのです。

すなわち、17節—19節に書かれているとおりであります「17もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあって、さらに力強く支配するはずではないか。18このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。19すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである」。

一人の人、アダムの罪によって、死が支配することになった。しかし、それに対して一人の人、キリストの恵みと義の賜物によって、命がさらに力強く支配するようになった。一人の人、アダムの罪によって、全ての人々が罪に定められるようになった。しかし、ひとりの人、キリストの義なる行為によって、命を得させる義がすべての人に及ぶようになった。一人の人、アダムの不従順によって、多くの人々が罪人とされたように、一人の人、キリストの従順によって多くの人々が義人とされたというのです。

創世記2章7節によりますと「主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられました」と書かれており、私達が土に帰るということは、このことを意味しています。しかし、コリント人への第一の手紙15章47節によると「第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る」と書かれています。この第二の人とは言うまでもなくイエス・キリストその人です。

アダムは美と愛に包まれた園で試みにあい、敗北しました。キリストは荒野において、そして醜さと憎しみに囲まれたゴルゴダの丘の上で試みに遭い、勝利しました。

アダムは神に背いたものであり、その園から追い出されたのです。俗に言います、失楽園です。キリストは自身の隣にはりつけにされている背きの者に向かい言いました「今日、あなたは私と共にパラダイス（天の園）にいるであろう」。

私達がアダムの末裔だということを変えることは私達にはできません。しかし、アダムの末裔であり続けるのか否かということについては私達には選択の余地があります。その生に対しては私達はどのようなこともできない、それゆえにキリストはこれらのことをよくよく踏まえてヨハネ3章3節でニコデモというユダヤ人指導者との会話の中でこう言われています。「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

私達は本来、アダムから続くこの罪の流れの中を生きる者であります、その流れではなくイエス・キリストにある命の水の流れの中に身を置き、新しく生まれることができるのです。

イエス・キリストという川から流れる水についてキリストが生まれる約600年前に生きたエゼキエルという預言者はエゼキエル書47章7節—9節においてこう書いています。

⑦わたしが帰ってくると、見よ、川の岸のこなたかなたに、はなはだ多くの木があった。⑧彼はわたしに言った、「この水は東の境に流れて行き、アラバに落ち下り、その水が、よどんだ海にはいると、それは清くなる。⑨おおよそこの川の流れる所では、もろもろの動く生き物が皆生き、また、はなはだ多くの魚がいる。これはその水がはいると、海の水を清くするためである。この川の流れる所では、すべてのものが生きている。

このところに記されている「アラバ」とは現在、「死海」と呼ばれているあの塩の海、生き物が生息するのを拒む、あの死んだ海のある場所なのです。しかし、その所にこの川の水が流れるとそれは清くなるというのです。清くなるとは原語によると癒されるという意味があります。

これは預言者エゼキエルによるイエス・キリストを川の流れに譬えた預言です。「その水がよどんだ海にはいると、それは清くなる」。皆さん、この表現は科学的にはおかしいのです。一本の川が汚染された海をきよくするなどはありえない話なのです。

私達は「よどんだ川の水が、きれいな海に入るとそれが清くなる」というなら分かるのです。なぜなら、海の方が大きいのですから。どんなにきれいな川の水であっても、巨大なよどんだ海に入っても、大きな影響は起こりえないのです。しかし、イエス・キリストという一本の川が、無数の罪の川がやがて大海原にまでなってしまったような、その所に注がれていく

ならば、そのよどんだ海すら清くなるというのです。癒されるというのです。

皆さん、このことがこの17節に書かれていることなのです。「もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストを通し、命にあって、さらに強く支配するはずではないか」。

20節には「律法がはいり込んで来たのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ち溢れた」とも書かれています。

たとえその罪の濁流が強くても、神の「あふれるばかりの恵み」はさらに罪の束縛以上に「さらに私たちを強く支配し」、その恵みはますます満ち溢れているのではないかというのです。

イエスの弟子ヨハネはイエス・キリストが言われたことをヨハネ7章37節—38節に記録しています「祭の終わりの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた「誰でも乾く者は、私のところに来て飲むがよい。私を信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって、流れ出るであろう」

ヨハネは興味深いことを書いています。それはイエスが立ち上がり、叫んで言われたということです。皆さんは最近、座っている所から立ち上がり、何かを叫んだことがありますか。私達の人生にそう日常的に起きることはありません。もし、そのようなことをするならば、本当にここぞという時にする行為です。

イエスにとっても立ち上がって、叫ぶということは何か特別なことであつたに違いありません。では、そこまでして言われた言葉な何なのでしょうか。

イエスはこう叫んだのです「誰でも乾く者は、私のところに来て飲むがよい。私を信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって、流れ出るであろう」

イエスは道行く群集を見つめられました。その目には罪の流れに流されている人間が見えたことでしょう。罪の濁流の水を飲むことができずに乾いている人達を見たのでしょうか。私のところへ来て飲むが良い！そうすれば、そのその水はその腹から生ける水となって流れだすから。

皆さん、私達の罪の流れは強いのです。そう、その流れは私達が思う以上に強いのです。私達にはどうすることもできない流れです。私達が抱える諸々の問題の根本はここにあるのです。なぜ、私達の間には憎しみがあるのでしょうか。裏切りがあるのでしょうか。そして、どんな人間にも死というものがあるのでしょうか。私達がこの濁流の中にあるからです。

しかし、キリストはこの流れを変えることができるのです。たとえその水がどんより汚れていても、キリストから溢れ出た命の水はその汚水を全くきよめることができるのです。

お祈りしましょう。我らの救い主なるイエス様、あなたが罪の流れの中にいる私達のために新しい命の川となって流れ込んで下さり、私達の渇きを癒し、私達を生かして下さることを感謝します。あなたが「誰でも渇く者は、私のところに来て飲むがよい」と叫ばれたように、私達もあなたからその水をいただくことができますように。